

「不易流行」

よき伝統を守りながら(不易)

進歩に目を閉ざさないこと(流行)によって、

「理想」を創造する

「より身近な まちづくりを目指して」

早いもので町長に就任してから5ヶ月が過ぎました。「3000人の楽しい町」を目指そうと大きな旗を掲げましたが、町民の皆さんと共に、できることを一つずつ積み重ねていくことで、夢を現実のものにしていきたいと考えています。今後ともよろしく願います。

12月下旬に福祉自治体ユニットと人口減少に立ち向かう自治体連合の首長連絡会に参加しました。講師の一人である前厚生労働省雇用均等・児童家庭局長の香取照幸さんの発言が心に残りました。「20年後にどのような地域にしたいのか、ランドデザインを描いて、今何をするのかを考える。そういう思考回路を持ち、一つずつ対応することで流れが変わる。」と。

今ようやく「3000人の楽しい町」を目指した若手プロジェクトチームが始動し、町民の皆さんの困りごとに向き合う活動をしています。町民



ワークショップから生まれた「こうふくらしつく」という団体も継続した展開をされようとしています。私も就任以来何度か集落に出かけてお話を伺い、中学校でもフォーラムに参加して意見交換をしました。「3000人の楽しい町」は役場だけでなく皆さんと役場の距離が近くなり、理解しあうことで、江府町の未来を一緒になつて作っていくことができるのではないのでしょうか。今後も積極的な情報交換をして、住民の皆さんの意見に耳を傾け、スピード感を持った仕事をしていきたいと思えます。

1月には長年の懸案である役場庁舎の、整備についての考え方を説明する機会を設けさせていただきました。議会での議論はもとより、住民の皆さんにまちづくりに関わっていただく一つの、そして大きな案件だと思えます。また、未来を見据えた施策を来年度予算の中で検討していくこととなります。共に理解しながらよりよい江府町を築いていきましょう。

「3000人の楽しい町」 プロジェクトチーム報告

プロジェクトチーム第4回目の記事を担当します。役場総務課の谷口と申します。普段は、防災行政無線担当として町民の皆様に声をお届けしていますが、今回は文章で私たちの活動をお伝えします。

去る12月22日(木)に、旧明倫小学校でプロジェクトチームの公開会議を開催しました。今回は参加者の皆様といっしょに課題の解決方法を模索するワークショップを行いました。ワークショップの内容は「車が無くても自由に移動したい」という課題に対して、4つの班に分かれて意見を出し合うというものです。まずは課題について「なぜ車がないと自由に移動できないのか」「その原因の原因は何なのか」と問いを何度も重ねることで、本当の原因(真因)を突き詰めました。次に、その真因に対して「住民、集落、企業等団体行政」はそれぞれどのような取り組みができるのか。そして取り組みの結果、江府町はどのような場所になるのかを話し合いました。短い制限時間でありながら、参加者の間では積極的な議論が交わされ、感銘を覚えるほかありませんでした。

今回のワークショップは、住民の皆様の中から出てきた困りごとに対して、住民の皆様自身が目を向け、解決に向けて取り組むための力をつけることがプロジェクトチームの目論見でした。

各々の意見を出し合い、他者の意見と組み合わせる最適な答えを導く——その萌芽が参加者の皆様の中ですでに芽生えていることに、感嘆の念を抱かずにはいられなかったのです。参加者の皆様も、そんな手ごたえを感じられたのではないのでしょうか。今後も皆様のご参加をお待ちしております。(谷口宗一郎)



▲短時間でしたが充実したワークショップでした

動画で町報こうふ!



前回の報告会の様子は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。